

「留萌川 昭和63年8月洪水」から30年

～あの経験をこれからに活かすために～

■留萌川の概要

留萌川は、その源を北海道留萌市の境にある天塩山地の南端に発し、タルマップ川、チバベリ川等の支川を合わせ西北に流れ、留萌市街部において日本海に注ぐ、幹川流路延長44キロメートル、流域面積270平方キロメートルの一級河川です。流域面積の86%が山地を占め、平地面積の少ない山間地河川のため、ひとたび洪水が起きますと、あふれた水が少ない低平地に集中し、大きな被害を引き起こすことになります。



■「留萌川 昭和63年8月洪水」とは……

昭和63年8月25日から26日にかけて停滞した前線により雷を伴った強い雨が降り続きました。この結果、留萌川の流域平均雨量は326ミリと過去最高を記録し、峠下では1時間に82ミリの集中豪雨となりました。この豪雨は、留萌川に一気に流れ込み幌糠では25日の21時から22時の1時間で2.13m水位が上昇、その後も雨は降り続き、26日早朝に留萌川の堤防を越え氾濫が始まりました。

氾濫した濁流は、田畑を冠水させ、留萌市の人口の95%が集中する下流市街地に津波のように押し寄せ、市街地は茶色の海に埋没しました。

浸水面積は1,290haとなり平地面積の34%が浸水、田畑の冠水、住宅、道路、鉄道、工場などが浸水し一時は陸の孤島と化しました。

◆市街地の浸水状況



堀川町の堤防越水状況



留萌市街 末広町



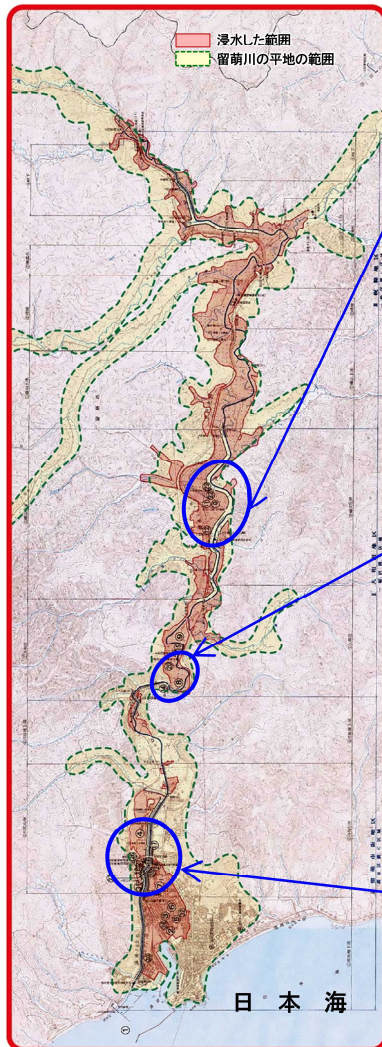
開運町の浸水状況



大和田町の浸水状況

◆主な被害状況

家屋浸水 **3,376戸**、橋梁流失 **13ヶ所**、道路損壊 **74ヶ所**、土砂くずれ **62ヶ所**
 道路・JR等 不通、農地被害 **623ha**



◆水防活動の様子

官民あがての**総勢1,000名以上**にわたる必死の水防活動や救助活動を始めとし、高砂排水機場や排水ポンプによる一早い内水排除などにより、洪水による負傷者を出すことなく、被害を最小限に食い止めることができました。



■昭和63年洪水後の留萌川

◆直轄河川激甚災害対策特別緊急事業〈通称/激特事業〉

昭和63年8月洪水のあと、留萌川は、大きな水害の発生した区間について再度の災害発生を防ぐため、緊急に整備することを目的とした激甚災害対策特別緊急事業に認可され、昭和63年度から平成4年度までの5年間に河道掘削、低水護岸、高水護岸（アーマー・レビー）を実施、総事業費80億円が投入されました。



河道掘削:

留萌川は川幅が狭く橋も多い、また、排泥地として利用できる広い敷地も確保できないため、掘削船として、スパット付バックホウ浚渫船(左図)が使用されました。



低水護岸:

河川利用や景観等に配慮したブロックが使用されました。護岸の一部にパネル(留萌になじみある版画、総譜、絵)が設置され、リバープロムナードとして、市民の散策の場となっています。



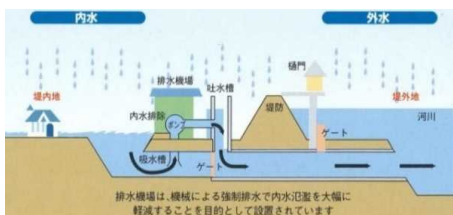
高水護岸(アーマー・レビー):

通常、堤防は土を材料として作られています。この土堤表面に保護工を設置した堤防をアーマー・レビーと呼んでいます。破堤の危険性が通常の土堤に比べて大幅に減少します。激特事業区間で使用している「アーマー・レビー工法」は、北海道で初めて実施されました。

◆排水機場

留萌川には、高砂排水機場(昭和61年完成)・東雲排水機場(平成13年完成)の2つの排水機場が設置されています。

排水機場は樋門にポンプ施設を備えたもので、洪水時に堤内地に貯まった水をポンプで強制的に排出する施設です。



◆ダム

留萌ダムは平成22年に完成した施設で、留萌川河口から約21km上流の留萌川支川チバベリ川に建設された特定多目的ダムです。ダム下流域の洪水被害を軽減させる施設であり、大和田遊水地とともに建設されました。



ダムURL:

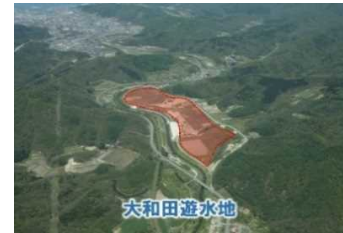
<http://www.hkd.mlit.go.jp/rm/tisui/f6h4sv0000000b0gw.html>

◆遊水地

大和田遊水地は平成22年に完成した施設で、留萌川河口から約9km上流に位置し、囲ぎよう堤と周囲堤に囲まれた土地は、洪水時に越流堤から留萌川の水が越流し、一時的に水を貯める施設です。遊水地下流地域の洪水被害を軽減させる目的で、建設されました。

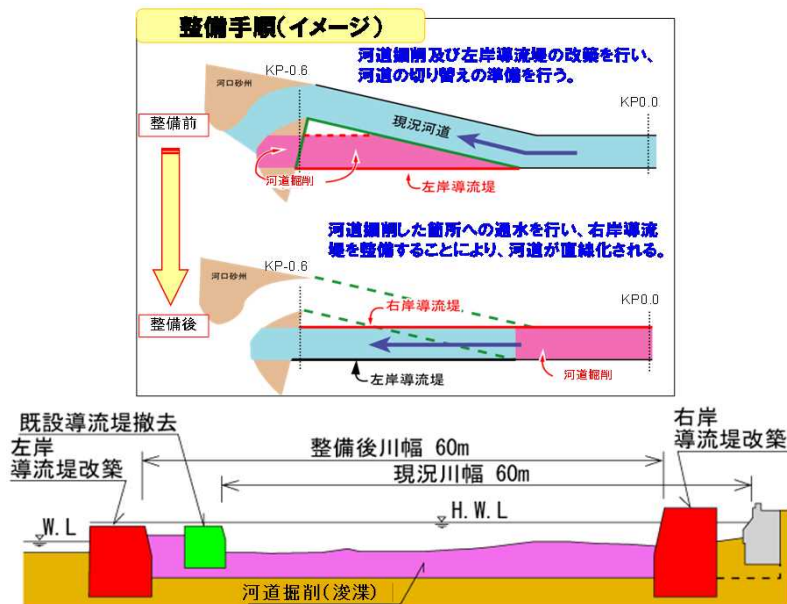
遊水地URL:

<http://www.hkd.mlit.go.jp/rm/tisui/f6h4sv0000000bgw.html>



◆河口導流堤の改築

人口資産の集中する留萌市街地下流の浸水被害を解消するため、川の流れる断面積が著しく不足する河口部において、河道掘削などを行い洪水時の水位を下げることを目的に、**平成22年度**より工事が進められています。



■水害に備えた心構え

水害に備え『避難情報』や『川の状況』などの情報の入手方法を事前に確認しておくことが重要です。これらの情報は、テレビのデータ放送やパソコン・携帯電話から入手することができます。また、『避難場所や避難経路』は留萌市防災ガイドマップから確認できます。

◆川の防災情報

大雨時に川の氾濫のおそれがある場合、雨や川の水位の状況などを、インターネットを通じてリアルタイムで配信し避難に必要な情報を入手できます。

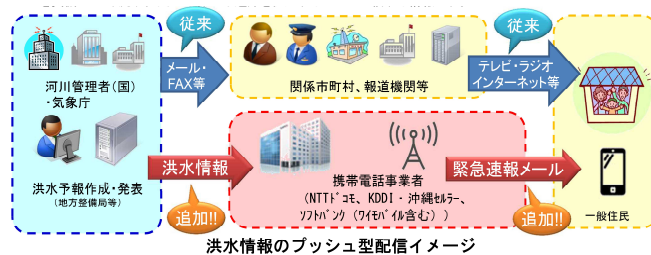


川の防災情報URL:

<https://www.river.go.jp/kawabou/ipAreaJump.do?gameId=01-0201&refineType=1&fldCtlParty=no>

◆洪水情報のプッシュ型防災情報

「河川氾濫のおそれがある情報」及び「河川氾濫が発生した情報」を配信対象エリア内にいる携帯電話を持ったユーザーに配信する。



洪水情報のプッシュ型防災情報URL:

<https://www.hkd.mlit.go.jp/rm/tisui/dfvnau00000042f4.html>

◆留萌市防災ガイド・マップ

留萌川が大雨で洪水となった場合、浸水する範囲と水深、更に各地区避難場所を示した地図です。



留萌市防災ガイドマップURL:

http://www.e-rumoi.jp/soumu/sou_00016.html

◆避難情報

災害発生危険度の危険度に応じてお住まいの市町村から避難に関する情報が発令されます。

避難勧告や避難指示（緊急）を発令することが予想される場合

**避難準備・
高齢者等避難開始**

- ☐ 避難に時間を要する人（高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。
- ☐ その他の人は、避難の準備を整えましょう。

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

避難勧告

- ☐ 速やかに避難場所へ避難をしましょう。
- ☐ 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合

**避難指示
（緊急）**

- ☐ まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。
- ☐ 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

避難情報は留萌市HPやテレビ・ラジオの報道機関などから入手できます。

留萌市HP:

<http://www.e-rumoi.jp/bosai/index.html>